

調査・研修報告書（議員用）

報告者： 松本 みのり

実施場所：全国市町村国際文化研修所	実施日：2022年2月7日、8日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりのため、持続可能でより使いやすい地域公共交通のあり方を学ぶ。</p> <p>法制度と国の動向、他地域の取り組みや交通政策担当者、専門家との交流学习を通して、地域での実践につなげられることを見つける。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「どんな地域にしていきたいか？」を軸に考える。 * 高齢者だけでなく、高校生、子どもたちの移動手段についての視点も重要。 * 「生活交通」がまともにならないところは地域がなくなる。生活交通対策は、人口減対策でもある。 * 地域と一緒に「行きたい場所」「乗りたい交通」をつくる。出かける目的をつくる。「乗って楽しい。」「降りても楽しい。」を生み出す。 * 明るく外から見え、WIFI、電源、テーブルなどが備わったバス待合を公共施設内に整備。 * 商業活性化、健康維持効果にも目を向ける。 * 実際に困っている人に公共交通会議にでてもらう。 * 公共交通に合わせた会議時間を設定する。 * 公共交通会議の年間予定を組み、傍聴者も入れ、オープンな会を開き、地域住民にしっかり発言してもらう。 * 形だけ真似てもうまくいかない。地域の特性に合わせ、地域ならではのものをつくっていく。 * 交通単体で考えるのではなく、色んな発想、観点を持ち、楽しく取り組む。 * 国の制度も下から意見を出してより良く変えていくべき。 	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>* これまで通院、買い出しなど、行かなければならない場所への移動手段ばかり考えがちだったが、わざわざ出かけたくなるような仕掛けが必要との認識を持った。</p> <p>ただ時間を潰すのではなく、地域の人と物、情報が集まる拠点となるような待合所を、既存の施設を活かしながら各地域に整え、その点と点を路線バスで結び、人も物も行き来させることを考えたい。</p> <p>例：お茶が飲める。本が読める。勉強やものづくりが出来る。買い物が出来る。買い物の予約が出来る。出荷、出店も出来るような場所をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 交通計画づくりに高校生にも加わってもらう。 * 商業施設などとの協力企画を立て、出かけるきっかけを増やす。 * Maas を取り入れるのであれば、市や民間委託によるスマホ教室の計画から行う。 * 公共交通モニターによる状況調査を行う。 * 国の決まりだからで留まらず、地域の課題を踏まえたアイデアを国にも上げていく。 	